

初諱政爲。寛延三年養父兵衛の遺知二百石を繼ぎ、寶曆二年大小將から漸次昇進して御小將頭に至り、寛政五年百五十石を加へ、享和元年五月十四日七十八歳を以て歿した。

オホヤゴンザエモン 大屋權左衛門 初めて前田利常に仕へ、三百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

オホヤシヨウ 大屋庄 鳳至郡に屬して、和名抄所載鳳至郡小屋郷の地である。東鑑建保六年十月廿七日の條には、『今日左兵衛尉長谷部信連法師於能登國大屋莊河原山二卒。』と見え、承久三年注進の能登國山數目録には、鳳至郡に『大屋庄内東保卅三町、加南志見村定。同庄西保四拾四町七段二』とあり、その外『大屋莊内穴水保四拾九町一段七』は鹿島郡に列せしめてある。越登賀三州志には大屋庄或は親庄としてある。

オホヤシヨウ 大屋庄 鳳至郡に屬し、藩政時代では、小池・鶴入・藤野・光浦・堀・釜屋谷・水守・中段・山本・房田・上黒川・下黒川・繩又・吠木・空熊・繩又・別所谷・二俣・長井・稻屋・小伊勢・輪島・輪島崎・輪島海士の廿四ヶ村を合んで居た。この外に穴水郷之内大屋庄といふのがあつて、それには七海・川島・大町・上唐川・下唐川・鶴島・藤卷・梶・岩車・天神谷の十ヶ村があつた。

オホヤスケベエ 大屋助兵衛 前田利家に仕へて三千石に至つた。其の子彌七郎は千五百石であつたが、祿を辭して丹羽長重に仕へ、長重流浪の後岡本文兵衛と稱した。其の子岡本左門は横山長知に仕へ、大坂役に堀田圖書丸に合槍し、白銀二枚・帷子二を賜はつた。其の子左源太は前田利常に仕へて二百石を賜

はり、後三百五十石に至つた。故に大屋助兵衛は藩臣岡本氏の祖である。

オホヤチ 大谷内 羽咋郡草木の内の小字。オホヤチ 大谷内 鳳至郡谷内の内の小字。オホヤチ 大谷内 鳳至郡黒川の内の小字。オホヤチガハ 大谷内川 ↓フカミガハ 深見川。

オホヤブカンエモン 大藪勘右衛門 初めて前田利常に仕へて七百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

オホヤブシヨウウジ 大藪小路 金澤の町名。藩士大蔵氏の居邸があつた故の稱である。

オホヤマ 大山 江沼郡高尾の西にある山。高さ八四米。大聖寺及び動橋線の以北に在る洪積層の最高點である。

オホヤマ 大山 能美郡丸山部落の東方にある山。高さ九二〇米。山體第三紀層。

オホヨコメ 大横目 萬治元年津田源右衛門・中川八郎右衛門長種の仰付けられたのが此の職の初であらう。寛文二年玉井市正、同七年前田七郎兵衛直立・多賀豫一右衛門直定が命ぜられ、延寶八年十一月廿八日多賀は公事場奉行に轉じ、翌廿九日津田・中川並びに菊池十六郎直辰三人共に隱居を命ぜられて廢職となり、その役向は御横目の管掌する所となつた。

オホヨドミチカセ 大淀三千風 檀林派の俳人。伊勢の産。天和三年四月四日仙臺から行脚の途に就き、出羽・越後・越中を経て、七月八日金澤南町井筒屋一正亭に着き、翌九日白山登山の爲發足、再び金澤に歸つた後小松に去つた。

オホワキナホヒサ 大脇直久 尾張の人。

父は次郎兵衛。幼名三十郎、後六右衛門と稱した。越登賀三州志に六右衛門を六左衛門とするのは非であらう。初め富田重政に仕へて小姓となり、大坂夏役に出陣して功を立て、正保元年前田利常より二百石を賜はり、三年又二百石を加へて使番に進み、別に職秩百五十石を受けた。萬治二年罷めて馬廻組に班し、寛文二年先簡頭に陞り、再び職秩百五十石を受け、四年二月歿。直久擊劍を富田重政に學んで頗る之を能くした。子孫相繼いで藩に仕へた。

オホキイテベエ 大井市兵衛 大聖寺藩士。前田利治の隨臣。金澤の安見伊織の門弟で、安見流の炮術を能くした。安見流は安見元勝から起るものである。

オホキサゴエモン 大井佐五右衛門 大聖寺藩臣。寶永六年前田利直の長流亭を建築せしめた時、田中十左衛門と共にその奉行となつた。佐五右衛門は大力にして幾多の説話を遺し、又父市兵衛に學んで安見流の炮術を能くした。

オホキシユメ 大井主馬 久兵衛の子で、安見元勝が鳥銃隨一の弟子であつた。祿千石。大坂再役に眞田丸惣構際にて敵首二つを取つた。其の子伊右衛門子なくして家斷絶した。

オホキナホヤス 大井直泰 通稱久兵衛。天正の初前田利家に越前府中に仕へた。後利家の能登を領するに及び、直泰は三輪吉宗と共にその政務を掌り、祿千二百五十石に至り、慶長十五年惣持寺山門の奉行中にも越前住大井久兵衛尉源朝臣直泰と見える。元和の初五百石を受けて老を養ひ、その子主馬厚用は大普氏に改めた。

オホキノミヤ 大塚宮 ↓ヤマシロオホキジンジヤ 山代大塚神社。

オホヲトコノアシアト 大男の足跡 鶴尾記にいふ。河北郡千田村牛頭天王の社の北の田の中に、大男の足跡とて、幅九尺許長さ三四間の地が、草生茂り足の形になつて遺つて居る。こゝのみならず俱利伽羅の坂中にもあり、又江沼郡片山津にも大なる足跡がある。鶴尾記には又河北郡木越村光林寺の跡に大人の足跡があつて、土落くほみ草一筋も生ぜぬとある。

オマレツカ おまれば塚 石川郡北笹塚に在つて、四周水田の中に略圓形の封土を有し、直徑二二米五、高さ四米、頂上に於いて直徑約九米、表面には雜木生ひ茂り、數株の老松が一きは高く聳えて風致を添へてゐる。おまれば塚の名は、圓塚の轉訛で、その古墳であることは、附近に多く祝部土器の破片を出すことでも推定せられ、その頂上に穴があつて、嘗て狐の巢窟となつたといふことからして、擴穴の存在が豫期せられる。この塚の西南には甕塚嶺にびわ塚といふ古墳もある。

オミカガミ 御御鏡 舊十二月廿五六日頃から、子女の嫁入先又は養子先に、その生家から歳暮の祝儀を贈り、之に米二升乃至四升でつくつた鏡餅一重を添へた。それを『おみかどみ』といつたのは、僧侶に對する布施を御御明といつたと同例で、敬語の重複したものである。

オミヤウケトリビケシ 御宮請取火消 ↓ウケトリビケシ 請取火消。

オミヤザカ 御宮坂 金澤城三、丸から甚石

オホ—オミ